



金龜会報

平成27年3月1日発行
発行所
滋賀県立彦根東高等学校
金龜会
滋賀県彦根市金龜町4-7
TEL & FAX0749-23-0888

印刷所
株式会社ハシケン
彦根市城町1丁目4-12



▲昼の中庭、奥に銀杏の木

▼卒業記念像と記念樹

▲ライトアップされた夜の中庭

▶新たに改装された天文台



◀一時館の全景と一本残された櫻

▲復活した物理講義室



ご あ い さ つ

金亀会会長 細 江 正 人

金亀会会員の皆様方におかれましては、ご健勝でご活躍のこととお慶び申し上げます。平成26年度、母校では校舎の耐震・設備改修工事も順調に進み外観や中庭外構など見違えるほど綺麗になりました。是非、金亀会総会に出席いただきピカピカにリニューアルされた学舎を見てやつてください。この工事の機会を捉えてPTAによる普通教室への冷房設備の設置も完了しました。これには、先輩として甲子園募金と金亀会からも資金援助をいたしました。母校の設備環境についても、他校に引けを取らないものとなるべく、ソフト面の充実を中心から願うばかりです。

昨年の日本創成会議・人口減少問題検討分科会の発表は、少子高齢化による影響が地方の基礎自治体に顕在化することを指摘し、話題になりました。東京・大阪・名古屋・広島・福岡などの政令指定都市では自然に歯止めが効かないのが現状です。特に、20代～30代の若い女性が都部へと流れていると言われば少子化問題が重なり、地方は高齢化・過疎化する一方です。2040年ごろには少子化と人口流出によって若い女性の人口が半分以下になる市町村の自治体が896に及び消滅可能性都市として試算されています。

滋賀県内では、竜王、甲良、多賀の3町で他県に比してその数は少ないのですが、平成の合併で行政区分化しているのですが、同じ危惧の元の町があつても統計上には現れない地域も潜んでいるのです。さて、同窓諸兄にご相談申し上げたいことがござります。



ご あ い さ つ

滋賀県立彦根東高等学校 青木靖夫

金亀会会員の皆様は政・官・学・産・財界それぞれの分野で、世界中で活躍され、多くのことを見聞され、各分野において専門的な知識や、難局を乗り切る知恵をお持ちのことと思います。私は、金亀会会員の人口減少問題は地方にとって切実な問題です。彦根市も例外ではありません。母校のある滋賀を故郷として、故郷を護り続ける者として人口減少時代を、生き残るために、どのような提案をさせていただくと良いのかを思案しております。市長、町長始め行政、住民が一体となってまちづくりに頑張っておりますが、基礎自治体として生き残るために、大きな選択を迫られ、存続とその在り方にも関わることでもあり、同窓の皆様のご指導をいただき考えております。例えば、故郷の家屋敷が現在は無住であつたり、やがて無住となるこ

といたしました。やがて一四〇周年を迎える彦根東高校の生徒たちのため役立てたいと存じますのでご理解いただき多くの会員に納入いただきますよう伏してお願い申し上げます。同窓という、意識すれば確かな強い絆で結ばれた繋がりがあります。今一度、会の基盤強化と発展を願い、より一層のご指導ご鞭撻をお願いし、ご挨拶とさせていただきます。

金亀会会員の皆様には、平素より本校の教育活動の推進に、ご理解とご協力を賜わり、誠にありがとうございます。今年度の彦根東高校の状況について説明させていただきます。さて、平成26年度の新入生は、全日制8クラス320名で、全校生徒は、全日制で24クラス956名、定

とを予想しておられる方々もおられると思います。所謂「空き家対策」などの考え方についてなど、交流都市・集客都市の視点でご提案いただければ幸いです。どうぞよろしくお願いします。

さて、この会報掲載の決算報告のおり収支が心細い傾向にあります。金亀会会費は卒業時に納入の入会金(三千円)と会報に同封の郵便振替払込書による年会費(一千円)を毎年、もしくは終身会費(一万円)を一度だけ払い込んでいただいて運営しております。このたび新たに助会費を創設させていただきました。つきましては、還暦を過ぎた会員に助会費を新たにお願いすること

いたしました。やがて一四〇周年を迎える彦根東高校の生徒たちのため役立てたいと存じますのでご理解いただき多くの会員に納入いただきますよう伏してお願い申し上げます。同窓といふ言葉は、今年度の教育活動ですが、高校の教育環境を誇る学校となりました。新規部は全国高総文祭茨城大会で7年連続最優秀を受賞し、全国新聞コンクールでも二コロ賞を受けました。さらに、団体部は全国運動部、文化部が近畿大会や全国大会に出場しました。来年度滋賀県大会で、特に文化部の活躍が目立ちました。新聞部は全国高総文祭茨城大会から多くのご援助をいたしました。

本校は、これまで彦根城の石垣とお濠に囲まれた恵まれた環境のもと県下のトップ校としての地位を築いてまいりましたが、今回の改修工事により施設設備の面でも県内外に教育環境を誇る学校となりました。今後はこれらを有効に活用し、教育活動のさらなる充実を図つてまいりたいと考えております。さて、今年度の教育活動ですが、前回は4月の1年生宿泊オリエンテーションを皮切りに、6月の学園祭、8月には3年生進学合宿や1、2年生の東大・京大オーブンキャンパスなど、進学支援を中心とした様々な取組みを実施しました。さらに、10月以降の後期は、平成2年、3年卒業の9名の先輩方を講師に招き、キャリア教育の一環として「総合教養講座」を実施しました。また、12月には田原總一朗さんに講演をお願いし、第一部では1、2年生全生徒を対象に「時代を読む」というテーマでお話をいただき、第二部では希望生徒70名余によるゼミ形式の討論会を行いました。参加した生徒から最近の社会情勢などについて多くの質問が出されました。S.S.H.本体と合わせて実施しています。S.S.H.本体と合わせて実施しています。S.S.H.事業では、地域の科学力の向上を図ることを目的に小中学生を対象とした科学実験講座や出前授業、中学生科学コンテストなどを本校生徒が中心に

の耐震改修工事は、昭和37年に実施された改築以来53年ぶりとなる工事で、校舎の耐震化だけでなく木造校舎棟や部室の新築、校舎外壁・内装の新装、教室へのエアコンの導入、自動ドアやエレベーターの設置なども行いました。また、校舎の改修工事に合わせて、前庭や中庭の整備なども行いました。

本校は、これまで彦根城の石垣とお濠に囲まれた恵まれた環境のもと県下のトップ校としての地位を築いてまいりましたが、今回の改修工事により施設設備の面でも県内外に教育環境を誇る学校となりました。今後はこれらを有効に活用し、教育活動のさらなる充実を図つてまいりたいと考えております。さて、今年度の教育活動ですが、前回は4月の1年生宿泊オリエンテーションを皮切りに、6月の学園祭、8月には3年生進学合宿や1、2年生の東大・京大オーブンキャンパスなど、進学支援を中心とした様々な取組みを実施しました。さらに、10月以降の後期は、平成2年、3年卒業の9名の先輩方を講師に招き、キャリア教育の一環として「総合教養講座」を実施しました。また、12月には田原總一朗さんに講演をお願いし、第一部では1、2年生全生徒を対象に「時代を読む」というテーマでお話をいただき、第二部では希望生徒70名余によるゼミ形式の討論会を行いました。参加した生徒から最近の社会情勢などについて多くの質問が出されました。S.S.H.本体と合わせて実施しています。S.S.H.事業では、地域の科学力の向上を図ることを目的に小中学生を対象とした科学実験講座や出前授業、中学生科学コンテストなどを本校生徒が中心に

恩師だより

余生なほ農に生きたし初暦

寺村 房子



先生は昭和16年に犬上郡多賀町に誕生され、昭和37年に中京女子短大を卒業された後、すぐに教職に就かれました。新任は長浜商工高校で10年、昭和47年より彦根東高校で3年、昭和50年より彦根商業高校で12年、昭和62年より米原高校で2年、それぞれ勤務され平成元年に退職されました。特に、先生は保健体育を担当され、主にバスケットボール部の顧問として生徒達に慕われたと聞いています。

現在は週3回習い事、月2回俳句会、週1回木曜ハウスでのボランティア、月1回老人会、そして畑がお好きで、土や草や作物からパワーをもらつて元気にお過ごしです。

東高に転勤して
早朝練習に体育館に来た一人の生徒が自発的に全部の窓を開けてからシユート練習を熱心にしていた姿に感心した。

校務分掌で生徒課の担当となり会議が度々開かれ、各先生の思う事が考える事を出し合つて活発に意見交換もでき充実していた。

また、「お茶を飲みにおいて」と誘つて頂き、おいしいお茶を朝見先生より出して頂き、青木先生・川村先生方と家のこと家族の様子を互いに話して憩いのひとときもあつた。また、体育科の先生の奥さんとも仲良くお付き合いさせて頂き、子供二人と私との揃いの服を作つてもらつたりして楽しく勤めさせて頂いた。

私服について

修学旅行の引率に行つた時の事。夜 女子生徒が私の部屋に来て「ク



職員の集合写真、真ん中が筆者
(1975年アルバムより)



バスケットボール部の顧問をされる筆者 (1974年アルバムより)

東高ならではの体育の授業

◎東高体操について

東高で創作された東高体操というものがあり、プリントを見ながら一から覚えて生徒も真剣に取り組み、伸ばす所は足先まで伸ばす、上げる所は指先まで伸ばす、跳躍は存分に跳ぶ。

何もかもきちんとこなそうとする生徒の態度と取り組みに勉強させられた。また、授業が終つた時も親しく話して来てくれたりして「ほのぼの」とした思いに浸る事が出来た。

ラスの全ての女子が一部屋に集まっているのでちょっと来て下さい」と呼びに来たので出かけた。部屋に入るとシーンとした中で泣いている生徒もいて無気味な雰囲気が伝わってきた。

それは「東高が私服だつたからのこと」。生徒課の服装検査で先生に派手と言われた。私は「派手とは思わない」と生徒は言う。先生の視点と生徒の視点がずれていよい。丁度その頃は高度成長の折でファッショニズム界にも変化が起り、学校に着ていく服を買いに出かけてもギヤザーやフレイヤーチェックや土地色は地味でも華やかに見えるものが沢山出回る様になつた。保護者引率のもと保護者もこれ位ならと買つてやつても、学校へ着ていくと学校では注意を受けたりして生徒はショックを受ける。生徒は「私達の気持ちを理解して欲しい」、私は「あなた達の気持ちが私と通ずる所がある」と、学校に戻つて急速生徒課長の先生に伝えるいうことで、修学旅行より宿題をもつて帰つた。

学校では何度か会議が開かれ私服の難しさに悩まされた。私の転勤後、しばらくして東高の女子に一流デザイナーの制服が決められ準備運動後、校外に出るにあたつての注意等を終え二列に並び校門から出していく。どの生徒も整然として大手橋を渡り、あらたかな地蔵様にくく頭を下げて、無料で料金所を通り抜け、梅園の中程のベンチを折り返して、小休止の後、授業時間内に校舎へ戻るという行程である。時間的に厳しいものであつたが全員いつも行動でき、さすが良き伝統ある東高生と思えた。料金所の方も笑顔で対応して下さり気持ちのいいものであつた。



保健室の先生と筆者 (1975年アルバムより)

城下(梅園)までの持久走

東高の体育のカリキュラムで三学期になると、持久走で彦根城の中の梅園まで走ると聞きびっくり!! 体育の授業で校外に出る事は余りなかつたので驚いた。

準備運動後、校外に出るにあたつての注意等を終え二列に並び校門から出していく。どの生徒も整然として大手橋を渡り、あらたかな地蔵様にくく頭を下げて、無料で料金所を通り抜け、梅園の中程のベンチを折り返して、小休止の後、授業時間内に校舎へ戻るという行程である。時間的に厳しいものであつたが全員いつも行動でき、さすが良き伝統ある東高生と思えた。料金所の方も笑顔で対応して下さり気持ちのいいものであつた。

準備運動後、校外に出るにあたつての注意等を終え二列に並び校門から出していく。どの生徒も整然として大手橋を渡り、あらたかな地蔵様にくく頭を下げて、無料で料金所を通り抜け、梅園の中程のベンチを折り返して、小休止の後、授業時間内に校舎へ戻るという行程である。時間的に厳しいものであつたが全員いつも行動でき、さすが良き伝統ある東高生と思えた。料金所の方も笑顔で対応して下さり気持ちのいいものであつた。

梅の香を吸ひつ城下の持久走

東高の心意気、今後とも大切にになる活躍を期待しています。益々の発展を祈っています。

梅の香を吸ひつ城下の持久走

記念講演

「企業のグローバリゼーションと
人材のグローバリゼーション」

白木三秀 氏(東18)



いたきました。

講演では、世界で活躍する日本企業が、グループ内の優秀な人材を育成し、活用することができないという問題提起がなされました。

日本企業が現地法人で、外国人社長を採用している比率は29%で着実に増加している。

本社は「コミュニケーションが難しくなる」「本社主導の経営がやりにくい」という不安をかかえている。

一方、日本人派遣者は現在推計で26万人を超えており、現地従業員から「責任感が強い」「顧客を大事にする」という点で高い評価を受けているものの、日本人管理職と現地人管理職に対する従業員の評価を比較すると、「人脈が広い」という項目では大きく差をつけられている。

そこで、先生は世界企業を日本だけで展開することは非常に難しくなつておらず、まずは、近江正人金龜会会長(50卒)よりご挨拶をいただきました。その後、新任の青木靖夫校長(S50卒)よりご挨拶をいただきました。そして大高時男(S50卒)よりご挨拶をいただきました。そして永年の功労に対し感謝状を贈呈いたしました。今回は現役の大学生諸君10名の参加もあり、合わせて97名の参加でした。100回目に向けて更なる参加者の増加を目指して参ります。

今年度の記念講演では、早稲田大学政治経済学部学術院教授の白木三秀先生をお招きしました。白木三秀先生は昭和45年(東18回)に本校を卒業され、早稲田大学政治経済学部卒業。同大学院修了。国土館大学政経学部教授を経て、平成11年4月より早稲田大学政治経済学部教授。平成17年より現職に就任されています。専門は、国際人材管理、人的資源管理で、最近ではグローバル化する日本企業のあり方について、大変重要な問題提起をなされています。

講演に先立ち、講師紹介として同学年の吉田正子氏より、最近の先生の業績を丁寧にご説明いただきました。学生時代には「足でかせぐ研究」をモットーにしておられたことなど、楽しいお話を聞いて

いたきました。いきから企業の中でリーダーシップをとる経験をさせておくことが、何よりも大事である述べられました。

日本企業が現地法人で、外国人社長を採用している比率は29%で着実に増加している。

金龜会総会

平成26年度金龜会総会は5月25日(日)母校木造校舎多目的ホール(音楽教室)において開催され、全国から98名の同窓生が参加されました。会長・学校長の挨拶の後、議長に植田洋一(東12)氏を選出し議事に移りました。

平成25年度事業報告・会計決算報告、平成26年度事業計画案・予算案が審議され、何れも全会一致で承認されました。

その他に、金龜会の一部改正について議論され、来年から賛助会費制度が導入されました。また、創立140周年記念事業を平成28年10月をメドに実施することが決定されました。

よつて次回からの第98回平成27年度の開催日は7月11日(土)となります。土曜日のお昼時にお集まりいただきことにより、どの年代の方々にもより参加やすい日時となり、またその後には同期会も開催することが出来ることから、より多くの会員の皆様方にご参加いただける機会が増えるものと期待しております。

さらに総会ではご来賓として細江正人金龜会会長(S40卒)、そして新任の青木靖夫校長(S50卒)よりご挨拶をいただきました。そして大高時男(S50卒)よりご挨拶をいただきました。そして永年の功労に対して感謝状を贈呈いたしました。今回は現役の大学生諸君10名の参加もあり、合わせて97名の参加でした。100回目に向けて更なる参加者の増加を目指して参ります。

総会の後は「甲子園への道」と題して、野球部を15年の長きに渡り指導された今井義尚(S53卒)前野球部監督から甲子園

第97回平成26年度東京金龜会総会並びに懇親会

幹事長 福永典明(東17)

まずご報告させていただきまでは、東京金龜会が第一回より連綿と続けて参りました平日土日にかかわらず開催日が毎年7月7日であつたのを、会員からの要望もあり、またより多くの会員がご参加いただけるようとの主旨から「開催日を7月の第2土曜日とすること」を執行部より提案しましたところ、満場一致で賛成していただきました。

よつて次回からの第98回平成27年度の開催日は7月11日(土)となります。土曜日のお昼時にお集まりいただきことにより、どの年代の方々にもより参加やすい日時となり、またその後には同期会も開催することが出来ることから、より多くの会員の皆様方にご参加いただける機会が増えるものと期待しております。

今回の総会では、特別講演として、サンライズ出版株式会社代表取締役であり、淡海文化を育てる会の事務局長をされている岩根順子様(東14回)に講演をお願いし、「淡海に恋して(近年の近江事情)」と題して素晴らしいご講演をいただきました。岩根順子様には講演を快く引き受けただけた心より感謝致します。また、その後の懇親会では、参加者の皆様それが旧交を温め樂しいひと時を過ごしていただけたことと存じます。

今回の総会において、関西金

龜会の会長に川村俊明様(東一回)が選任され、私が事務局長を仰せつかりました。今後とも

ご承知のことと存じますが、関西金龜会では、「歴史街道歩

くう会」と「ゴルフ同好会」の2部会を構成して、各会の幹事

員で歌い、「また来年会いました」と散会いたしました。

関西金龜会

事務局長 藤井長弘(東27)

出場までの道のりを、手作りの映像(パワーポイント)を駆使して、他校から学んだこと、また生徒たちとのふれあいや葛藤を分かりやすく、時にはユーモアや、感動的なエピソードを交えて講演していただきました。

皆さん真剣になつて映像を注視にお話を傾けられ、講演後には皆様から感激の大拍手が沸き起きました。今井先生感動を本当にありがとうございました。

いときから企業の中でリーダーシップをとる経験をさせておくことが、何よりも大事である述べられました。

日本本社と世界本社を混同せず、世界本社のもとに日本本社もアメリカ本社も横並びに存在するという体制をつくること。また、日本人管理職は日本で部・課長だつた人が2ランク上がつて現地で社長になるのであって、若

郷土の銘品(ふなずし、近江牛、近江牛カレー、鮎の佃煮、近江米等)が参加者全員に当たり漏れなくお持ち帰りいただきました。

他にも5名の方がジャンケンで赤備え応援グッズ4点セット(甲子園応援用)をゲットされ大いに盛り上りました。最後に岡村孝副会長(S44卒)と「ゴルフ同好会」の

をしつかり果たされたこと。また、学生時代には「足でかせぐ研究」をモットーにしておられたことが、何よりも大事である述べられました。

日本人管理職は日本で部・課長だつた人が2ランク上がつて現地で社長になるのであって、若

いときから企業の中でリーダーシップをとる経験をさせておくことが、何よりも大事である述べられました。

日本本社と世界本社を混同せず、世界本社のもとに日本本社もアメリカ本社も横並びに存在するという体制をつくること。また、日本人管理職は日本で部・課長だつた人が2ランク上がつて現地で社長になるのであって、若

いときから企業の中でリーダーシップをとる経験をさせておくことが、何よりも大事である述べられました。

催しました。いずれも二〇名の会員の参加をいただいて和気藹々とゴルフを楽しみました。

関西金亀会では、今後も学年幹事会を中心に各活動内容を検討し、より多くの会員の皆様に楽しんで御参加いただけるよう、活動を続けていきたいと考えております。

「歴史街道歩こう会」では、様々なお世話をいただいております。

平成二六年一月二〇日に、万葉公園でございます国立民族学博物館「みんぱく」を見学しました。例年ですと、名所旧蹟をめぐつてハイキングを行つておりますが、今回は趣向を変えて「みんぱく」の特別展を見学しました。その後、日本庭園を見学して広大な公園で散策や昼食を楽しみます。博公園でございます國立民族学博物館「みんぱく」を見学しました。例年ですと、名所旧蹟をめぐつてハイキングを行つておりますが、今回は趣向を変えて「みんぱく」の特別展を見学しました。例年ですと、名所旧蹟をめぐつてハイキングを行つておりますが、今は趣向を変えて「みんぱく」を見学しました。

平成二六年一月二〇日に、万葉公園でございます國立民族学博物館「みんぱく」を見学しました。例年ですと、名所旧蹟をめぐつてハイキングを行つておりますが、今は趣向を変えて「みんぱく」の特別展を見学しました。例年ですと、名所旧蹟をめぐつてハイキングを行つておりますが、今は趣向を変えて「みんぱく」の特別展を見学しました。



平成二六年 東海金亀会報告 事務局長 車戸彬邦（東6）

催しました。いずれも二〇名の会員の参加をいただいて和気藹々とゴルフを楽しみました。

関西金亀会では、今後も学年幹事会を中心に各活動内容を検討し、より多くの会員の皆様に楽しんで御参加いただけるよう、活動を続けていきたいと考えております。

当会は、六月十五日に名古屋国際ホテルで、原幸男金亀会副幹事会を中心とした活動を実施し、より多くの会員の皆様に楽しんで御参加いただけます。本年度は、幹事会を中心に各活動内容を検討し、より多くの会員の皆様に楽しんで御参加いただけます。活動を続けていきたいと考えております。



少子化・高齢化などで地方都市が元気を失つて、アンバランスな社会構造が、大きな問題となっています。同じような問題が、東海金亀会のメンバー構成にも現れています。東海金亀会が発足してから十二年が経過した、発足当時のメンバーだった諸先輩達が、理由はいろいろある中で、退会をされ、徐々に会員数が減少し、かつ、若い世代の入会が無く、執行部としては、会員数を増やせないまでも、なんとか現状を維持したいという、悩ましい努力の数年間でした。

幸いなことに、一昨年（平成二五年）母校の硬式野球部が応援の甲子園出場を果たしてくれたことにより、東海地方に在住の、若い世代の卒業生が、奮起してくれました。更に、金亀会本部から、「金亀会会員名簿」改編され、コンピューターで当地に在住の隠れた卒業生のリストを拾い出しました。その結果、の皆様のご協力のもと、毎年コンペを開催しております。昨年度は、六月三日には竜王ゴルフコースで、また、一月二八日には瀬田ゴルフで、コンペを開

いたしました。今年度は、滋賀県下にお住いの卒業生はどのくらいあります。折り返し、支部入会案内をお送りします。

今年はホテルのパーティルームを飛び出して、「ようこそ同窓生！近江鉄道でGO。神仏の里で多賀三昧」と銘打ち、地域と同窓の魅力を思う存分楽しむ旅に出掛けました。

開通100年を迎えた近江鉄道多賀線・多賀大社前駅に集合、土田雅孝氏（東17）・多賀町観光協会事務局長の秋晴れの空に響くガイドで出発。平居晋氏（東29）がオーナーを務める「藝やカフエ」でウェルカム・ドリンクをいただきて小休止。木村泰崇（東24）はご不在でした。が、真如寺で「地獄絵図」を拝観、門前町絵馬通りを散策しながら、一小時間かけて多賀大社参集殿に到着しました。

犬上地域・多賀大社の歴史を柱に、神道について、木村光伸宮司（東10）の講話を拝聴した後、拝殿にて厳かにご祈祷を受けました。身も心も清めていただけで再び参集殿へ。

受付では、参加記念品として、松宮忠夫氏（東2）直筆による色紙をお渡ししました。個々に相応しいメッセージを記していただきました。

辻博士支部長の挨拶の後、山下剛教頭先生より母校の現状や取り巻く環境についてのお話を伺いました。細江正人金亀会会長による乾杯で懇親会がスタート。卓上の料理について、一



休庵」経営の上川悟史氏（東41）から詳しい説明がなされ、より一層美味しいただくことが出来ました。

ゲスト・スピーカーとして、色紙を書いていたいた松宮氏からは、前教育長らしく多賀町で勤めている「言葉教育」について熱弁していただきました。お多賀さん参拝土産の定番「糸切餅」の多賀や会長・北川敬一郎氏（東5）にも登壇いただいたので、多賀の魅力を披露していました。

「秋の集い」は当初、「彦根の地で「園遊会」を！」がコンセプトであつたと聞いています。しかし、天候や安全性を考慮して、ホテルでの開催へとシフトしてきたようです。「原点回帰」を目指した訳ではありませんが、今回は地域の宝を満喫しつつ、同窓生という主語で、世代や地域を越えた親交が深められた新しいスタイルであつたと思いまして、ホテルでの開催へとシフトしてきました。

「秋の集い」は当初、「彦根の地で「園遊会」を！」がコンセプトであつたと聞いています。しかし、天候や安全性を考慮して、ホテルでの開催へとシフトしてきました。

休庵」経営の上川悟史氏（東41）から詳しい説明がなされ、より一層美味しいただくことが出来ました。

ゲスト・スピーカーとして、色紙を書いていたいた松宮氏からは、前教育長らしく多賀町で勤めている「言葉教育」について熱弁していただきました。お多賀さん参拝土産の定番「糸切餅」の多賀や会長・北川敬一郎氏（東5）にも登壇いただいたので、多賀の魅力を披露していました。

「秋の集い」は当初、「彦根の地で「園遊会」を！」がコンセプトであつたと聞いています。しかし、天候や安全性を考慮して、ホテルでの開催へとシフトしてきました。

休庵」経営の上川悟史氏（東41）から詳しい説明がなされ、より一層美味しいただくことが出来ました。

当支部には、滋賀県下にお住まい又はお勤めの卒業生はどなたでも入会（年会費1000円が必要）できます。入会をご希望の方は、次の連絡先まで、お名前と卒業年度を記入してお送りください。折り返し、支部入会案内をお送りします。

連絡先

支部長 辻博士

FAX 0749-26-2238

副支部長 兼事務局長 安田良介

FAX 0749-48-2057

東15回同窓会 開催予告

東15回卒の同窓会を、8月16日（日）午後2時から彦根駅東口徒歩5分の「マリアージュ・彦根」で開催します。来年が卒業50周年にあたり、その前倒しの記念の会です。お互いに誇り合つていただき、賑やかで楽しい会にしましょう。

幹事 衣斐 隆・田中省司 田原達雄TEL 090-8651-1772

島津 義和 常任理事

藤倉 嶩 国語

寺村 猛 理科

黒川 寿夫 理科

佐々木 憲城 国語

熊谷 直孝 国語

寺村 義男 数学

藤村 幸三 国語

謹んでご冥福をお祈りいたします。

平成25年度 金龜会一般会計収入支出決算報告書

(収入の部)

(単位：円)

予算科目	予算額	収入済額	差引額	備考
入会金	1,037,000	993,000	△44,000	在校生
会費	3,400,000	3,455,120	55,120	会費 終身 327人・年 249人
雑収入	35,528	54,785	19,257	名簿代、預金利息等
繰越金	227,472	227,472	0	前年度繰越金
合計	4,700,000	4,730,377	30,377	

平成26年度 金龜会一般会計収入支出状況（12月末）

(収入の部)

(単位：円)

予算科目	予算額	収入済額	差引額	備考
入会金	1,005,000	947,000	△58,000	在校生
会費	3,500,000	982,748	△2,517,252	会費 終身 87人・年 117人
繰入金		0	0	0
雑収入	2,052,259	1,971,183	△81,076	名簿代、宛名シール、預金利息、名簿発刊広告料収入等
繰越金	92,741	92,741	0	前年度繰越金
合計	6,650,000	3,993,672	△2,656,328	

(支出の部)

予算科目	予算額	支出済額	差引額	備考
事務費	107,000	99,943	7,057	消耗品等
通信費	140,000	100,629	39,371	電話代、郵送料
総会費	270,000	305,241	△35,241	総会諸経費
会議費	140,000	148,200	△8,200	常任理事会
旅費	120,000	77,720	42,280	支部総会
涉外費	450,000	450,000	0	支部総会祝金
事業費	3,183,000	3,120,903	62,097	会報印刷・発送、卒業記念品等
激励費	250,000	335,000	△85,000	全国大会出場激励金
予備費	40,000	0	40,000	
合計	4,700,000	4,637,636	62,364	

収入総額 4,730,377円 - 支出総額 4,637,636円 = 残額 92,741円(平成26年度へ繰越)

(支出の部)

予算科目	予算額	支出済額	差引額	備考
事務費	107,000	66,747	40,253	消耗品費
通信費	140,000	46,436	93,564	電話代、郵送料
総会費	300,000	233,639	66,361	総会諸経費
会議費	140,000	31,682	108,318	常任理事会
旅費	120,000	114,850	5,150	支部総会
涉外費	600,000	611,353	△11,353	支部総会祝金
事業費	3,353,000	456,629	2,896,371	公孫樹印刷、印刷機リース代
激励費	250,000	180,000	70,000	全国大会出場激励金
繰出金	1,000,000	0	1,000,000	
予備費	640,000	0	640,000	
合計	6,650,000	1,741,336	4,908,664	

収入総額 3,993,672円 - 支出総額 1,741,336円 = 残額 2,252,336円

平成25年度 金龜会基金会计収入支出決算報告書

(収入の部)

(単位：円)

予算科目	予算額	収入済額	差引額	備考
繰越金	39,013,488	39,013,488	0	前年度繰越金
寄付金	1,000	0	△1,000	
返還金	288,006	163,500	△124,506	東高新聞縮刷版刊行貸付金返還金
雑収入	3,506	3,030	△476	預金利息
合計	39,306,000	39,180,018	△125,982	

平成26年度 金龜会基金会计収入支出状況（12月末）

(収入の部)

(単位：円)

予算科目	予算額	収入済額	差引額	備考
繰越金	28,180,018	28,180,018	0	
繰入金	1,000,000	0	△1,000,000	
寄付金	1,000	5,344	4,344	
返還金	124,506	0	△124,506	東高新聞縮刷版刊行貸付金返還金
雑収入	3,476	135	△3,341	
合計	29,309,000	28,185,497	△1,123,503	

※東高第12回卒業同窓会より「吹奏楽部楽器一式(120万円相当)」を御寄贈いただきました。

(支出の部)

予算科目	予算額	支出済額	差引額	備考
激励費	1,000,000	1,000,000	0	SSH海外研修激励金
設備等整備費	10,000,000	10,000,000	0	PTA冷房設備整備
後援費	0	0	0	
合計	11,000,000	11,000,000	0	

(支出の部)

予算科目	予算額	支出済額	差引額	備考
激励費	1,000,000	1,000,000	0	SSH海外研修激励金
合計	1,000,000	1,000,000	0	

収入総額 39,180,018円 - 支出総額 11,000,000円 = 残額 28,180,018円(平成26年度へ繰越)

収入総額 28,185,497円 - 支出総額 1,000,000円 = 残額 27,185,497円

平成25年度 会計監査報告書

平成25年度滋賀県立彦根東高等学校金龜会の一般会計及び基金会计について、各会計の決算書を基に関係諸帳簿、預金通帳及び収入支出証拠書類等の監査をしたところ、いずれも適正に処理されており、正確であったことを認めます。

平成26年4月21日

金龜会会計監査 橋本貢治印 川瀬勝彦印

寄稿の予約を是非お願いします。字数は14字×28行程度をお願いします。

彦根に集う 彦中五五会同窓生

北村 隆(中55)



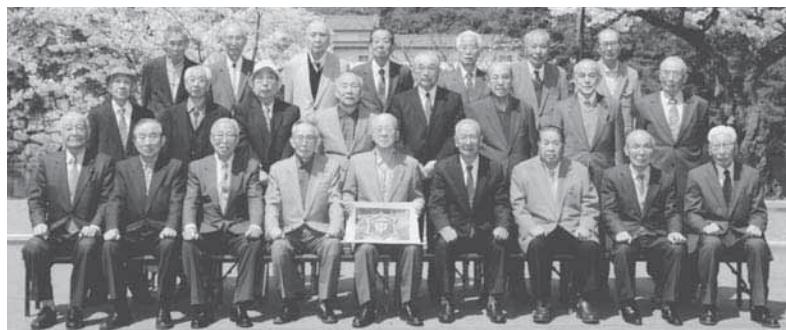
今年も新緑まことに麗しい五月二十一日(水)彦根グランドデューラーにおいて同級会を開催。幹事は宝塚の中嶋善夫君、「案内状を出す先の減つていくのが寂しい」と云い乍らも早くから会場を予約しての準備、当日の集合を待つていてくれました。

天守閣と城山を背に記念撮影。恵まれて美しい天候のもと、腰を伸ばして元気旺盛の風格。一年振りの再会に力強い握手。この一年の物故者を偲んで小川芳夫君、近藤正君、大田克彦君、岩崎義彦君、寺脇実君に黙祷。

出席者は激減したが、残る者の心意気は天を衝くほどに旺盛、健勝を祝して乾杯、開宴。近江の銘酒を酌み交わし旧交を温めての談話は活発。席順に立席し元氣一開口一番の声。二〇一四年版彦中名簿によると彦根中学卒業生は一九五名、うち物故者八六名、今回同窓会の通知を出した。「春爛漫」二金会会員皆

準備万端整えて迎えた四月一日(金)四月第二金曜日に毎年開催しているので誰言うともなく「二金会」と呼ぶようになつた。「春爛漫」二金会会員皆

彦中58期同窓会二金会 口分田政博(中58)



準備万端整えて迎えた四月一日(金)四月第二金曜日に毎年開催しているので誰言うともなく「二金会」と呼ぶようになつた。「春爛漫」二金会会員皆

準備万端整えて迎えた四月一日(金)四月第二金曜日に毎年開催しているので誰言うともなく「二金会」と呼ぶようになつた。「春爛漫」二金会会員皆

年の心の面々の話題は松原・入江千代、そして猛勉強正に「文武両道」を地で行つた思い出話であつた。かくして三時間は瞬く間に過ぎ閉幕となつた。



戦後三年の1948年、学制改革により彦中、彦女、彦根女子商は、新たな学区制の下、男女共学の新制の中学校と高校に

彦亀会 卒業六十五周年 記念総会と懇親旅行 廣瀬 澄(彦1)

(当時は一中と呼んだ)のお陰である。改修中の彦根東高の校庭の中に昔の残像を求めて散策した。ふと昔の彦中校歌「湖べの春にかざられて……」が自然と出てきたのも不思議であった。

「母校よ!永遠に輝くことを祈る」と校門に立つて振り返り両手を挙げて母校とも別れた。

傘寿に記念総会を開いてきた。今回第六回となる「卒業六十周年の記念総会」を、四月九日に彦根城の眺めの最高の場所、キャッスルホテルで開催、八十二歳の高齢にも関わらず四十四名が参会、折しも堀端の桜も満開で好天にも恵まれ、出席者の笑顔も満開の親睦の集いとなつた。

更にこの度も九十一歳を超えてなおかくしゃくとして幾何学会の活動も続けておられる恩師前川太市先生の参加をいただき、先生の尽きることのない意欲溢れる人生は、高齢に途ないがちな私たちに大きな励みとなつた。

一方、森江昌平君らの尽力によって十八年前からほど毎年の彦亀会旅行は、第十五回の今回をもつて最終となつたが、二十九名が参加、平戸・長崎など九州各地を五月二十七日から三日間にわたり周遊し、旅情を満喫する中、互いに親睦の名残を惜しむ旅となつた。

東高二回卒 「傘寿を祝う会」

再編され、当時旧制の四年生であった私達は、各学区の高校二年に編入された。その為私たち学年の交流した同窓生は合わせて多数となり、卒業五〇周年を機に、彦根高校の1950年卒業生を中心に関流した同窓生を包括する同窓会として「彦亀会」を結成、五年毎と古希、喜寿、



ツスルリゾート&スパは最高の場所。二人の恩師(石原省吾先生・尾本和男先生)を囲んで元気を交し合つた。次は米寿だ、などとは言つられない。創立百四十周年を迎える平成28年に再会しようと気勢を上げて散会した。

川島順次郎(東2)

平成26年10月11日、百十名が集まって傘寿を祝い合つた。母校の一角が見える堀端の「キヤ

東高31回喜寿記念同窓会

岡野正義(東4)

いつの間にか喜寿を迎える年になりました。隙間風の吹き込む教室、節が瘤のように盛り上がった廊下、昭和31年の卒業ですから、まったく早いものです。昨年、鞍馬での関西31会の際、平成18年の卒業50周年以来になる全体会をしようとの話になり、6月6日、市内のやす井で105名の参加で開催いたしました。

黙祷に続いて、幹事長、関東、東海、関西の代表挨拶、桂三風師匠の落語で盛り上がり乾杯、懇親会へと北村敏子さんの名司会で、ときおり、スピーチをはさみ進行していきました。最近のことは忘れるのですが、昔の



彦根東7回卒三4会 東西合同同窓会 於・熱海

古川武彦(東7)

平成二六年十月九日(木) 東西合同同窓会を一泊二日で『ハートピア熱海』で開催した。

七二名(男性四八名・女性二四名)の出席があり、翌日十日、箱根路を中心に三九名が参加して全スケジュールを大盛会のうちに終了した。

初日九日の午後には、幹事全員が熱海駅で『赤鬼魂』のジャケットを着て歓迎のお迎えに臨

ました。翌日の箱根路は日本晴れ! 雄

関西勢を中心に関西勢を中心

に、全スケジュールを大盛会のうちに終了した。

学年会だより

ことはよく覚えており、「アンナコト、コンナコト、アツタノサマー」と60年前に返り、アツ

ナコト、コンナコト、アツタノサマー」という間の3時間でした。帰りには廣田君から衣類関係の仕事をしているからと言つて、参加者全員に商売物のお土産をいたしました。この冬には同じものを見つけている人が全国に居るのだと思うと、何となく愉快になります。

喜寿の年になりますと、38名の卒業で79名の方が亡くなっています。また、健康がすぐれないので参加出来ないと心しながらないと思いま

した。この同窓会も、計画の段階では今回を最後にしようとことだつたのですが、これで終わひとつと思うと、何だか淋しくなり、機運が盛り上がれば開催し、またお会いしましようと思いま

した。この同窓会も、計画の段階では今回を最後にしようとのことだつたのですが、これで終わりとと思うと、何だか淋しくなり、機運が盛り上がり乾杯を残して閉会しました。

寺村公子カメラマンによる記念撮影が行われた。宴は、六時になりました。開催会場では、開会前に寺村久義会長の歓迎の挨拶、中西恒子さんに依る物故者名の朗讀・黙祷、関西代表野口長造君の挨拶・乾杯と続いた。

卒業後、すでに半世紀が経っているにも拘わらず、気持ちはすっかり高校時代に戻り、思ひ出話にあちこちで花開いた。歓

談の後はクラス別に代表者が学生時代のエピソードなどを披露し、一段と盛り上がった。最後に応援団スタイルの小川光二郎君、正村嘉規君と共に全員手をつなぎ『健兒の意氣は天を:』

歌『開けよこの窓』、花は咲く(花は、花は、花は咲く)そして応援歌(ああ英傑が夢のあと)の三曲を演奏してくれました。会場に鳴り響くハーモニーは、良縁吉日に相応しい迫力と切れどと送ります!

さて、いよいよ大宴会の開始です。司会のマイクは吉例の澤君、冒頭に物故者37名に黙祷を捧げたあと、澤君の開会の辞



50周年記念同窓会に 「花は咲く」

西川允(東12)

一年前に、彦根城の桜が満開になること、晴天に恵まれること

と、そして大勢が集合することを期待して、私達の「第十二回

(昭和39年) 卒業50周年記念同

窓会」は平成26年4月13日(土)

マリアージュ彦根において開催することを決定いたしました。

その大予想通りに当日は桜が満開、お天気も満開、125名の参加者も笑顔満開で、まるで自らの金婚式に集うがごく5年ぶりに彦根に集まりました。

記念撮影のあと、会場には今回の記念同窓会を祝して母校吹奏楽部へバスクラリネットなど楽器を寄贈させていただき返礼として、顧問の松島先生はじめ則久華子部長以下後輩達27名が会場に駆けつけてくれ、校歌『開けよこの窓』、花は咲く(花は、花は、花は咲く)そして応援歌(ああ英傑が夢のあと)の三曲を演奏してくれました。

久しぶりの再会に語らいの時間が余りにも短か過ぎ、あつと言う間に時は経ち、最後に外海外芳子さんの伴奏で全員が懐かしい青春讃歌、青い山脈・高校3年生を合唱し、仲間の大きな輪は会場いっぱいに広がりました。

次回幹事の中北慎治君から閉会の謝辞と共に、次回の参加のための健康管理要請が力強く宣言され、卒後50周年の記念の花は大きく咲いたのでした。



参加者には「ぎんにゃん」ストラップ



同窓会をもたれる場合には寄稿の予約を是非お願いします。

歴史を作り、足跡を残してこられた事に敬意を表し、出席の1

25名だけが主役ではなく、ご自身の健康上の理由、高齢者の介護、孫の世話を等々で今回はどうしても出席できなかつた方々も同窓会の主役である旨、挨拶をさせて頂きました。

中村正子さんによる日舞の「萬代の舞」披露で宴席に華を添え、蔭山明夫君の高らかな乾杯の音頭で、祝宴は和やかな語らいの場となりました。

宴半ば、澤君の知人吉井光さんの「はんなりコンサート」ではトーケとギター演奏と熱唱で、宴は最高潮へと盛り上がりました。

澤君の知人吉井光さんの「はんなりコンサート」ではトーケとギター演奏と熱唱で、宴は最高潮へと盛り上がりました。

澤君の知人吉井光さんの「はんなりコンサート」ではトーケとギター演奏と熱唱で、宴は最高潮へと盛り上がりました。

澤君の知人吉井光さんの「はんなりコンサート」ではトーケとギター演奏と熱唱で、宴は最高潮へと盛り上がりました。

3ヶ月に1度の相互学習会

辻 博史(東17)

第17回では、3ヶ月に1度の割合で学習会を開催し、すでに5回を数え、昨年11月には「遠足」も実施いたしました。

税理士・医師・教育長経験者・議員などがそれぞれの経験を踏まえて、1時間の講義をし、その後、食事をとりながら交流を深めています。平均12名の参加があり、中には兵庫県からこの学習会のためだけに参加している者もいます。

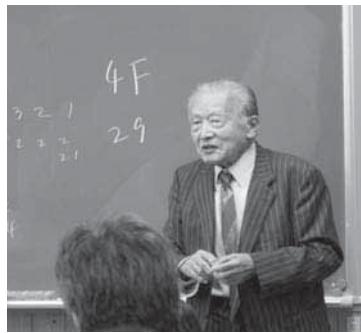
11月24日、比叡山坂本駅に集合して、比叡山への遠足を実施しました。紅葉真っ盛りの比叡山で僧侶からの講話を聞き、リフレッシュいたしました。今年は近江八幡水郷を見直そうをテーマとした第2回目の遠足の企

画も進んでいます。

人生60年を過ぎて、これまでに蓄えた知識を広めることで、己を見つめ直し、これから更なる充実した人生を考える機会としています。

ほぼ40年ぶりの数学授業

中川信彦(東25)

**卒業三十年記念同窓会**

辰巳ゆかり(東32)

ここ数年、11月の最終土曜日は高校一年の時の同級生と恩師・伊部先生を囲んでの忘年会を開いています。今年は先生の米寿を記念して改築後の真新しい教室をお借りし、数学の特別授業を開講していただきました。いつも1年1組以外の同級生も何人か参加し、総勢22名での受講となりました。

先生のお得意は当時から確率の授業。まずは順列・組み合わせの計算式の復習から始まって、口ト7の当選確率の計算やら競馬の確率やら、楽しい大人の確率の授業となりました。授業の最後はサプライズとして先生の自慢の教え子である細野豪志氏からのお祝いメッセージ。先生

文理をそれぞれ代表して田中



先生と前田先生からご挨拶をいたいた後、各先生方からもメッセージをいただき、当時を懐かしく振り返るとともに先生方のご健在ぶりをうかがうことができたのは大変喜ばしいこと

ができた後、各先生方からもメッセージをいただき、当時を懐かしく振り返るとともに先生方のご健在ぶりをうかがうことができたのは大変喜ばしいこと

でした。久し振りの顔を見つけての語り合いや、壇上で各クラス・部に分かれての写真撮影は、至福のひと時となりました。最後は校歌斎唱、市川先生のご挨拶で閉会となり、吉岡君と岳君が司会を務める二次会へと散会しました。全体写真がその場で配られた他、クラス写真が後日データ送信され、早くも楽しい思い出が蘇り、五年後の再会が待ち遠しく思われます。

過ごし、和田裕行君のエールで応援歌を、植山泰子さんのバイオリン演奏で校歌を合唱しました。あつという間の3時間でしたが、同級生の絆がいつそう深まつたと思います。森岡孝子さんの揮毫による「一期一会」のウェルカムボードが、会に華を添えてくれました。

東高37卒業25周年の同窓会

川岸真喜(東37)

11月1日、近江八幡の木テルニユーステラリにて、卒業三十年記念同窓会を開催しました。平成二十二年の第一回開催五年後の今回は、幹事代表が岳誉泰君から同じ柔道部の中村明彦君へ引き継がれ、東京在住ながら機動力を發揮し、上海やシンガポール等海外組も加えて百三十三名もの同窓生出席に尽力してくれました。恩師

も市川源一、伊部二郎、川合武彦、北村雅敏、杉野直、田中正俊、中山實、林孝子、前川位、前田和義、森本純各先生の十一

名をお迎えし、大変賑やかな会となりました。

國弘先生から「日本文化について」、寺村先生から「教育



冷房設備設置のお札

副校長 西野 時男

母校だより

きれず、金龜会より多額の補助をいただきました。金龜会の皆さんには、この場をかりましてお札申しあげます。ありがとうございます。

方善し」や「運・鈍・根」の精神、日本人に不足しているディスカッションの技術について力説された。

講演会のあと本校図書館で田原先生の図書館ゼミが行われ、田原先生が生徒からの様々な質問に答えられた。

田原先生は「これから日本のはどうなるのか」という質問に

対して「今の日本で一番の問題は少子高齢化だ」と主張され「例えればフランスでは保育サービスの整備が日本より充実していて、出生率は減少していない」と例示された。

また、田原先生はご自身の半生について「ほとんどの就職試験に落ち、東京12チャンネルにだけ合格した」と苦労を述べられた上で「しかし他の報道機関に入つていれば、フリーになることもテレビに出ることもなかつたと思う。人生何がプラスになるか分からぬ」と話された。

参加した生徒からは「田原さんの物事を的確に伝える技術に圧倒された」との声が聞かれた。(彦根東高校新聞 第444号より)

彦根東高校は、ここ四年にわたり耐震改修工事を行つてまいりました。そのお陰で、中庭が整備し直されたり、第一本館と第二本館を結ぶ渡り廊下に憩いの場が出来たりと、見違えるような校舎に生まれ変わりました。改修工事で変わったところはたくさんありますが、特に大きく変わったと感じるところが三つあります。

一つは第一本館にエレベーターがついたことです。二つ目は、エレベータの設置にともない第1本館からなくなつた家庭科教室、音楽室のために木造校舎が新設されたことです。そしてもう一つは、ホールームルーム教室などに冷房設備が設置されたことです。冷房設備については本校PTA会計で設置していただきましたが、PTA会計ではまかない



田原総一朗氏著書を寄贈



12月15日本校体育館で、先日図書館にご著書と書架を寄贈いただいた本校OBでジャーナリストの田原総一朗先生を迎えて記念講演会が開かれた。田原先生は「時代を読む」のテーマで講演を行われ、近江商人の「三

じます。

一発勝負や一点刻みの入試に批判があることも承知していますが、選ぶ側も選ばれる側も十分納得して大学に進んだのではないでしょうか。新しい入試制度は全人格的であるが故に選ぶ側の主觀が反映されることでしょ。多方面に価値観を置く新しい入試制度がどのような形で、一生懸命に高校生活を送つてき

進路指導課

た受験生たちを評価していくのかこれからもますます目が離せない状況になってきました。

総合教養講座

祐氏、油藤商事の青山裕史氏、環境省の岡野隆宏氏、森村学園の島田美由紀氏、NTTコミュニケーション科学基礎研究所の藤野昭典氏から示唆に富んだ講話をいただきました。

こうした講演会は、職業観や人生観を学ぶ上で、後輩たちにとって大変貴重な機会になります。今後とも未来を担う若者たちに学びの場を提供できますようよろしくお願い申し上げます。

今年度も、九月二十五日にキヤリア教育の一環として、一年生および二年生を対象に社会のさまざまな分野で活躍しておられる方々を招いての講演会を実施しました。

この企画も今年度で三回目になり、昨年に引き続き、第三十九回(平成3年卒)の伊藤滋朗氏(日本医科大学精神科病院)にプロデュースをお願いし、弁護士の湯塩麻里子氏、布引焼窯元の小嶋一浩氏、財務省の福田誠氏、三重大医学部移植外科の岸和田昌之氏、獣医師の福井大

学を土台にして科学を進めてきたことを見逃し、ただひたすらに科学を推し進めていったことと同じように、グローバル化の浪が押し寄せるに急激にアメリカナイズされていくこの国の教育のあり方に戸惑いと不安を感じています。

☆お知らせ☆

◎特殊詐欺に注意!

特殊詐欺が多発し、架空請求詐欺の被害発生が認められていました。犯人は会員名簿等を使つて、卒業者を狙つて電話をしてい

ます。犯人は高齢者を騙(かた)るオレオレ詐欺の電話が多発しています。

家族や周囲の方、とくに高齢者の方には、被害に遭われないよう呼びかけをお願いします。

○彦根東高百二十年史の販売について

彦根東高120年史を200円で販売しています。ご希望の方は金龜会事務局(0749-123-0888)までお申し込みください。

なあ、これについては金龜会総会・卒業式・入学式でも販売をしてあります。



「楽しく地域貢献」

彦根を映画で盛り上げる会 会長 目加田 宗彦(東34)



彦根キャッスルホテル前より彦根城を撮影するスタッフ

彦根に生まれ彦根市の小中学校を卒業し彦根東高校に入学卒業後、上京し東京の大学で学び大阪の会社に就職し彦根市に帰り実家の家業を引き継ぎました。東京大阪で暮らした7年を除く40年間彦根で暮らしています。ですから私の80%は彦根で出来ています。

そんな私が今回いたいたテーマは、「彦根を映画で盛り上げる会」と「彦根」と「彦根東高校」というものです。

「彦根を映画で盛り上げる会」とは何なのか?ということがあります。簡単に言えば、彦根が映画やテレビなどのロケ地として多く登場するのですが、なかなかそれがどこか?ということまで問われることも無く、少し寂しいな:と不満に思っていたこと。

2009年秋公開「火天の城」では織田信長の安土城築城が丁

暮らしています。ですから私の80%は彦根で出来ています。

そんな私が今回いたいたテーマは、「彦根を映画で盛り上げる会」と「彦根」と「彦根東高校」というものです。

「彦根を映画で盛り上げる会」とは何なのか?ということがあります。簡単に言えば、彦根が映画やテレビなどのロケ地として多く登場するのですが、なかなかそれがどこか?ということまで問われることも無く、少し寂しいな:と不満に思っていたこと。

2009年秋公開「火天の城」では織田信長の安土城築城が丁

暮らしています。ですから私の80%は彦根で出来ています。

そんな私が今回いたいたテーマは、「彦根を映画で盛り上げる会」と「彦根」と「彦根東高校」というものです。

「彦根を映画で盛り上げる会」とは何なのか?ということがあります。簡単に言えば、彦根が映画やテレビなどのロケ地として多く登場するのですが、なかなかそれがどこか?ということまで問われることも無く、少し寂しいな:と不満に思っていたこと。

2009年秋公開「火天の城」では織田信長の安土城築城が丁



俳優中井貴一さんと監督若松節朗さんを招いたイベント。右端が筆者



彦根城博物館の裏庭を夜に撮影

まつた「偉大なる、しゅらぼん」は湖東エリアの架空の城下町といふのが劇中のロケーションで主役の映画が彦根城近辺でも撮影され公開時には大いに彦根市民が盛り上がり、役者の中井貴一さんや広末涼子さんを彦根にお招きした様々なイベントを開催しました。

最後に、今後ぜひやりたいこと、それからみなさんとご協力お願いしたいことです。まず、彦根東高校にかかる映画撮影の協力がしたい。ということ。中でも個人的に尊敬する大先輩・田原總一朗さんの生涯をフィルムに残したい。

お願いは、今後、地域の生き残り策として、その地域の特徴を活かしたまちづくりが必ず必要になります。特徴のひとつとして「彦根を映画で盛り上げる会」をぜひ応援いただきたいと思います。彦根高校卒業生のみなさんから熱い応援期待しております!

17時より
懇親会



岡村美孝氏(東17回)

講師

サントリーホールディングス株式会社 経営顧問
学校法人雲雀丘学園 常務理事

演題

「やつてみなはれが世界にはばたく」
ビールの低迷ウイスキーの減少この2重苦をサントリーハ脱した。営業の最前線の戦いを生きし語りたい。

場所

彦根東高校木造校舎 多目的ホール

日時

平成二十七年 五月二十四日(日)
彦根・湖東・湖北支部総会 13時15分
総会 14時(受付12時45分)

記念講演会 15時

金龜会総会

彦根・湖東・湖北支部総会

入成績を残すということも出来ました。その他最近では「柘榴坂の仇討ち」という名も無き彦根藩士が主役の映画が彦根城近辺でも撮影され公開時には大いに彦根市民が盛り上がり、役者の中井貴一さんや広末涼子さんを彦根にお招きした様々なイベントを開催しました。

最後に、今後ぜひやりたいこと、それからみなさんとご協力お願いしたいことです。まず、彦根東高校にかかる映画撮影の協力がしたい。ということ。中でも個人的に尊敬する大先輩・田原總一朗さんの生涯をフィルムに残したい。

お願いは、今後、地域の生き残り策として、その地域の特徴を活かしたまちづくりが必ず必要になります。特徴のひとつとして「彦根を映画で盛り上げる会」をぜひ応援いただきたいと思います。彦根高校卒業生のみなさんから熱い応援期待しております!

彦根フィルムコミッショナリードラマ制作のスタッフとの連携も取り、より厚みのあるサポートが実践であります。

彦根東高校との関わりと言いますと、2013年春から撮影の始



●ご出席の方は同封ハガキをご返送ください●

彦根キャッスルリゾート&スパ
会費 七千円(当日徴収)